



女性の視点でサポート

九州更生保護女性大会

罪を犯した人たちのサポートや地域の子どもを育成する九州更生保護女性大会が9月28日・29日、佐賀県唐津市で行われました。約700人が参加し地域の活動内容の報告や意見を交換。29日には菊陽町更生保護女性会(会員50人)と会長の村上緑さんに感謝状が贈呈されました。同会は刑務所や少年鑑別所を視察し、慰問活動などを行っています。村上緑さんは「人間に対する活動なのでどこまでやればいいのかというのはない。とてもやりがいがある」と話していました。



▲「誇りをもって活動している」と話す町更生保護女性会

自分のペースで楽しく走る

第31回くまもと車いすふれあいジョギング大会

爽やかな秋晴れの下、第31回くまもと車いすふれあいジョギング大会が10月3日、菊陽杉並木公園さんと周辺道路で開催されました。生活用車いすの部1*と3*、競技用車いすの部3*の3種目に県内外から67人が参加。熊本の専門学校生160人のサポートの下、それぞれのペースで楽しく走っていました。ゴール後は防災ボランティアによるだご汁の振る舞いや、むたゆうじさんのコンサート、くまモン隊のくまモン体操などもあり、大いに盛り上がりしました。



▲和やかに交流しながら走る参加者の皆さん

黒毛和牛 熊本県1位を目指す

熊本県畜産農協中央支所畜産共進会

菊池郡市内の畜産農家が育てた牛を品評する熊本県畜産農業協同組合中央支所畜産共進会が9月18日、県家畜市場で開催され、本町の畜産農家8戸が8頭出品しました。計23頭が出品された中、東清一さん(戸次区)の「はじめ」号と那須啄弥さん(鉄砲小路区)の「ゆうこ」号が勝ち抜きました。東清一さんの「はじめ」号は、黒毛和牛のグランドチャンピオンの栄誉を受けました。2頭は、10月31日に熊本県家畜市場で開催される熊本県畜産共進会に出品されます。



▲グランドチャンピオンに選ばれた東清一さんの「はじめ」号

道路が見違える美しさに

菊陽土木建設業協会がボランティア清掃活動

菊陽土木建設業協会の会員9人が8月6日、光の森地区町道の清掃活動を行いました。

炎天下の中、約3時間の作業後には2トトラック3台分の草木やごみを回収。道路が見違えるよう美しくなりました。

上村信敏会長は「事故や熱中症も無く、無事に作業を完了できました。町民の皆さんや町発展の役に立てたのではないかと思います。今後も頑張っていきたいです」と話しました。



▲車道にはみ出す雑草やごみを除去する土木建設業協会

老若男女汗流し親睦深める

第26回西校区民体育祭

第26回西校区民体育祭が10月11日、菊陽西小学校運動場で行われ、子どもから高齢者まで汗を流し、熱戦を繰り広げました。

見事な秋晴れとなった当日、三里木区、三里木北区、新山区、境の松区、新成区、北新山区、杉並台区、青葉台区、東ヶ丘区、沖野区、光の森6町内、光の森7町内の住民約1,400人が来場。地域の皆さんは地区ごとに分かれ、力を合わせて優勝を目指しました。

競技はボール運びリレーや玉入れ、綱引き、物さがし、小学生徒競走、グラウンドゲート、むかで競走、リレー、フライングディスク投げ、地区対抗リレー。子どもから高齢者まで、地域の住民みんなが全力で競う姿に、応援席からは「頑張れー!」と大きな声援が飛び交い、場内は大いに盛り上がりしました。

参加者らは「とても楽しかった」「久しぶりに運動した」「初めて参加したが、普段なかなか会わない地域の人と触れ合えるいい機会だった。綱引き競技で優勝もでき、ハイタッチしてうれしかった。来年も参加したい」と爽やかな笑顔で話していました。



1 地域の力強い声援の中、力を合わせた綱引きで優勝した東ヶ丘区の皆さん
2 玉入れを楽しむ参加者
3 男女各5人1組でむかで競走。掛け声でタイミングを合わせて30メートル走り、ゴールを目指す

町の発展のために

測友会のメンバーがボランティア清掃活動

菊池郡市の測量業者有志でつくる測友会会員15人が8月22日、光の森地内「まなびの道」で草刈りやごみ拾いなどの清掃活動を行いました。約3時間の作業後には2トトラック2台分の草木やごみが集められ、緑道が美しくなりました。

城秀蔵会長は「緑道から両サイドにある植え込みの雑草などを取り除きました。微力ではありますが、今後も菊陽町の発展のために頑張っていきたいと思います」と力を込めて話しました。



▲まなびの道の清掃活動に汗を流す測友会の皆さん

仲間たちと日々の成長を実感

第24回菊陽町すぎなみ杯争奪中学校軟式野球大会

第24回菊陽町すぎなみ杯争奪中学校軟式野球大会が9月26日・27日、町民総合運動場他3会場で開催されました。

菊池郡市や熊本市、八代市から合計15チームが参加。熱戦を繰り広げました。優勝した西原中学校2年生(西原村)の村上翔真主将は「接戦でしたが、勝つことができうれしい。部員みんな成長できたと思います」と喜びを語りました。接戦が多かった本大会は、保護者や部員の応援の中、大いに盛り上がりました。



▲声援の中、全力でプレーする武蔵ヶ丘中と菊陽中の生徒



見て触れて感じる芸術の秋

茄子の会 作品展

茄子の会(中村孝幸代表)の作品展が10月10日～18日、光の森町民センター「キャロピア」で行われました。水墨画や写真、油彩画、パンの花、切り絵、ペン画、葉画、版画など125点が展示され、約350人が来場。切り絵やエコクラフト、彩墨画を体験したという太田郁子さん(三里木北区)は「3、4日通いました。体験は難しかったけれど、講師の人が丁寧にきちんと教えてくれました。とても楽しかったです」と芸術の秋に触れて満足そうに話していました。



▲展示作品の前で切り絵を体験する来場者

地域で楽しく汗を流す

みんなで楽しくスポーツ体験と食交流会

菊陽町青少年健全育成町民会議主催の「みんなで楽しくスポーツ体験と食交流会」が10月17日、西部町民センターで開催されました。これは同会議が校区青少年協立ち上げの後押しとして、交流事業を計画。地域の子どもや保護者、町民会議会員がニュースポーツ「五目お手玉」と「カローリング」で楽しく汗をかき、手作りカレーでおいしいひとときを満喫しました。

参加した小野日向さんは「初めて体験したスポーツがあり、楽しかったです」と笑顔でした。



▲ニュースポーツのカローリングを体験する子どもたち

みんなを元気に

陽かりの郷「陽かりまつり」

陽かりまつりが10月17日、介護付有料老人ホーム陽かりの郷(沖野)で行われました。100円から300円ほどの焼き鳥やおでん、フランクフルト、スイーツ、射的などの模擬店が出店。ステージではもっこすファイヤー司会の下、ダンスや入居者のカラオケ、ラムネ早飲み、総踊り、菊陽武蔵剣豪太鼓の演奏などが披露されました。家族と楽しんでいた入居者の楠田スミ子さん(96歳)は「毎年楽しみ。とても良かった。元気になりました。長生きします」と笑顔で話しました。



▲もっこすファイヤーの司会で笑顔になる入居者や来場者

地元の“きれい”に貢献

ソニーセミコンダクタ(株)地下水かん養田で稲刈り

ソニーセミコンダクタ(株)の社員ら約20人が10月5日、原水の水田約22㍍で稲刈りをしました。

これはことしで13年目の取り組み。「使った水以上を地下に返そう」を合言葉に、菊陽町と大津町の47農家の協力の下、43畝に水を張り、年間約240万トンをかん養しています。稲刈りに参加した同社員の森山卓さんは「黄金色の稲穂がとてもきれいで自然の素晴らしさを感じました。かん養田を通して地元の“きれい”に貢献していきたいです」と話していました。



▲6月22日に植えた苗の稲刈りに汗を流した社員ら

菊陽を味わい尽くす

菊陽“まち”遊び2015開催中

町の魅力を体験できる菊陽“まち”遊びが10月10日から始まり、町内全域で「遊ぶ」「学ぶ」「キレイ」「食べる」「体験」「つくる」イベントが開催されています。計74個あるイベントは11月30日まで開催。開催日の5日前までに菊陽“まち”遊び実行委員会 ☎(327)8531に電話などで申し込むと参加できます。

古田牧場主催の「絞りたての牛乳で3種のチーズ作り教室」は10月17日、三里木町民センターで行われました。参加者24人はモッツアレラ、ストリングチーズ、牛乳豆腐を酪農家指導で手作り。3歳と1歳の子どもと参加した木村智子さんは「一緒に作ってみたいねと話していたのでうれしい。とても楽しい」と笑顔で話していました。午後は(有)たわらや酒店が「おうちで簡単に!甘酒・塩麴を作ろう」を開催。参加者10人はビタミンたっぷりの甘酒を炊飯器で作りました。

「恋活屋上BBQ&ボーリングパーティ」は10月18日、まるよしと菊陽ボウルで初開催。見事カップルが3組誕生しました。熊本市の女性は「優しい男性が多かった。お肉もおいしかった」と喜んでいました。



1 家族などと会話を弾ませながら絞りたての牛乳でチーズ作り 2 もち米で粥を作り麴米を入れて甘酒を作る参加者。これに塩を入れると塩麴ができる 3 見晴らしのいいまるよし屋上でBBQを楽しむ男女

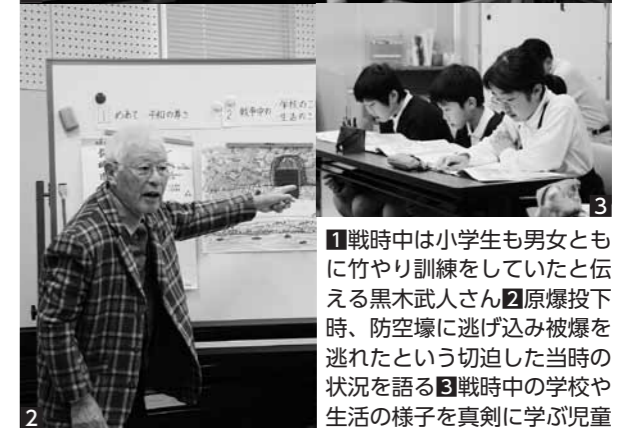
平和の尊さを学ぶ

菊陽南小学校「被爆体験講演会」

11月にある長崎県への修学旅行を前に、菊陽南小学校の6年生9人が10月15日、同校で黒木武人さん(馬場楠区)から講演を聞き、平和の尊さを学びました。

黒木さんは自作の絵や地図などを使い、児童たちに長崎での被爆体験を熱心に伝えました。「戦時中は食べるものがなくとても辛かった。運動会も中止され、国語や算数などは習わず、手旗信号や竹やりなど人殺しの練習をしていた」と振り返り、竹やりを使って練習の様子を伝える黒木さん。「原爆が落とされたとき、あと数秒でも防空壕に入るのが遅かったら自分にはここにはいなかった。爆心地近くでは家も人も跡形もなく、放射線を受けたかどうかでその後の命が左右された」と戦争のむごさと平和の尊さを話しました。最後に「人は集団で生きている。お互いに相手を思いやり、人を愛する心を育てて」と優しい眼差しで語りました。

上村幸士さんは「放射線の後遺症でずっと苦しい思いをするなど、戦争の恐ろしさをあらためて知った。戦争は本当に悲しく苦しいもの。現地でさらに学び、周りにも伝えたい」と決意を新たにしました。



1 戦時中は小学生も男女ともに竹やり訓練をしていたと伝える黒木武人さん 2 原爆投下時、防空壕に逃げ込み被爆を逃れたという切迫した当時の状況を語る 3 戦時中の学校や生活の様子を真剣に学ぶ児童